

# タスクフォースにおける 「基本的な考え方」取りまとめについて

国際標準化戦略タスクフォース

## 推進計画2010

### 基本認識

- ・我が国の技術力は世界最高水準だが、国際競争力に必ずしも結びついていない。
- ・国際競争力が、優れた技術を前提としながらも、画期的なビジネスモデルや、戦略的な国際標準化を含む、総合的な知的財産マネジメントに依存。

### 具体的施策

国際標準化特定戦略分野における標準化ロードマップを含む知的財産マネジメントを核とした競争力強化戦略を官民一体となって策定し、インフラ整備や支援策を確実に実行する。



- 国際標準化特定戦略分野において『**国際標準化戦略**』を策定
- 「国際標準化戦略」策定・推進体制のため『**国際標準化戦略タスクフォース**』を設立

## 国際標準化戦略タスクフォース

### ミッション

- ① 「国際標準化特定戦略分野」案の選定
- ② 戦略策定の支援
  - 戦略策定の「基本的な考え方」の提示
  - 戦略策定プロセスの指導・助言
  - 各分野の戦略案の企画委員会への報告
- ③ 戦略の実施状況のフォローアップ

### 委員

小川 紘一	東京大学 特任教授
上條 由紀子	金沢工業大学大学院 准教授
岸 宣仁	日本大学大学院 講師
妹尾 堅一郎	NPO法人産学連携推進機構理事長
南雲 弘行	日本労働組合総連合会事務局長
野間口 有	産業技術総合研究所理事長
山田 肇	東洋大学 教授
近藤 賢二	知的財産戦略推進事務局長
林 幸宏	国家戦略室参事官

## 国際標準化特定戦略分野

- ◆ 今後世界的な成長が期待され、我が国が優れた技術を有する7分野を、まず注力すべき「国際標準化特定戦略分野」として選定。

1	先端医療 (iPS、ゲノム、先端医療機器) 【担当府省】内閣府(総合科学技術会議)、文部科学省、厚生労働省、経済産業省
2	水 【担当府省】厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省
3	次世代自動車 【担当府省】経済産業省、国土交通省
4	鉄道 【担当府省】経済産業省、国土交通省
5	エネルギーマネジメント (スマートグリッド、創エネ・省エネ技術、蓄電池) 【担当府省】総務省、経済産業省
6	コンテンツメディア (クラウド、3D、デジタルサイネージ、次世代ブラウザ) 【担当府省】総務省、経済産業省
7	ロボット 【担当府省】厚生労働省、経済産業省

# 「基本的な考え方」の取りまとめに向けた議論

- 5月の知的財産推進計画2010の本部決定、6月の新成長戦略の閣議決定以降、各分野の状況を反映した「国際標準化戦略策定の基本的考え方」を提示すべく、国際標準化に対する関係府省の理解の促進を図りながら、個別ヒアリングを通じて各分野の取組の進捗状況を把握した上で、「基本的な考え方」を取りまとめた。

## タスクフォース会合開催状況

### 第3回タスクフォース(6月22日)

- ・個別ヒアリングにおける質問事項の調整

### 第4回タスクフォース(6月29日)

- ・国際標準化特定戦略分野における戦略策定の意義の各省への浸透
- ・個別ヒアリングの進め方の各省への周知

### 第5回タスクフォース(7月9日)

- ・個別ヒアリング① (先端医療(iPS)、次世代自動車、エネルギーマネジメント(スマートグリッド、燃料電池))

### 第6回タスクフォース(7月12日)

- ・個別ヒアリング② (次世代自動車、鉄道、コンテンツメディア(クラウド、3D、デジタルサイネージ、次世代ブラウザ)、ロボット)

### 第7回タスクフォース(7月15日)

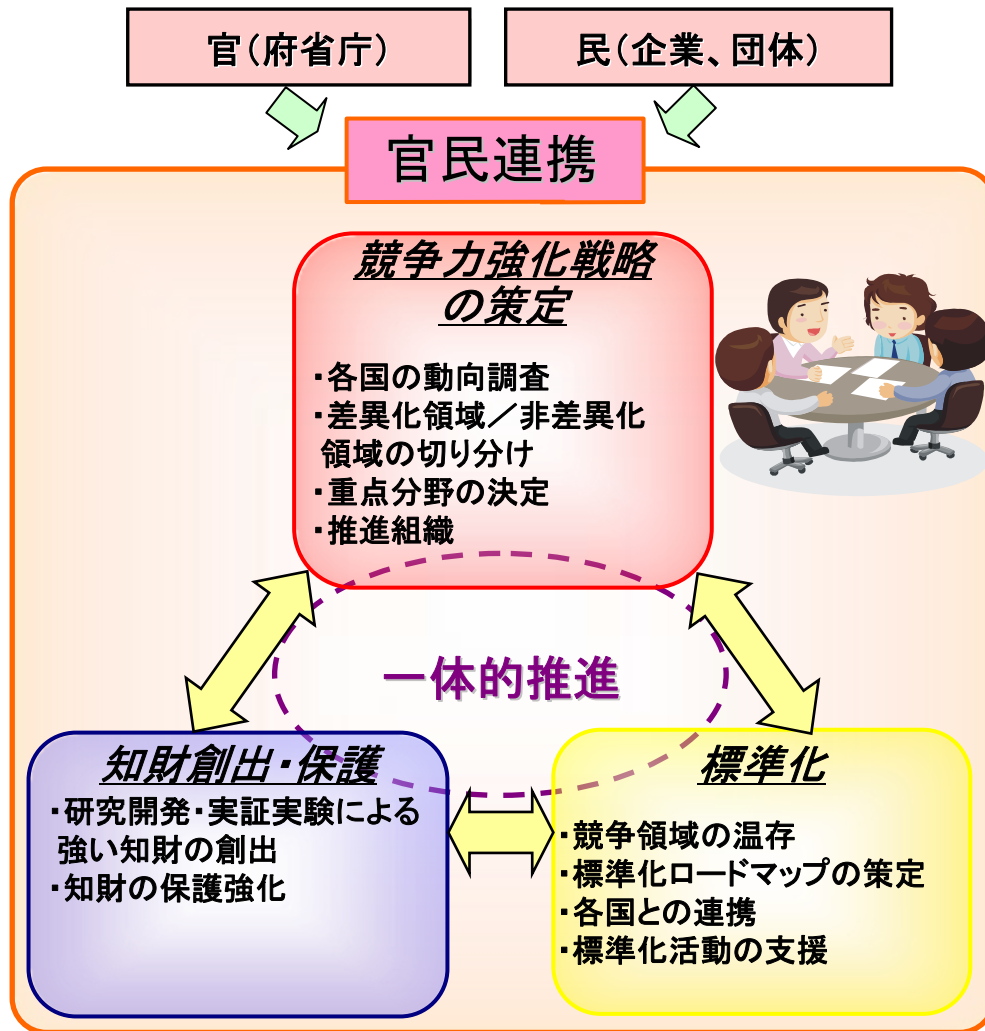
- ・個別ヒアリング③ (水、エネルギーマネジメント(LED、蓄電池))
- ・国際標準化戦略策定の基本的な考え方(素案)の調整開始

### 第8回タスクフォース(8月3日)

- ・個別ヒアリング④ (先端医療(ゲノム、先端医療機器))
- ・国際標準化戦略策定の基本的な考え方の取りまとめ

# 「基本的な考え方」に向けた検討の視点

## 国際標準化特定戦略分野への選択と集中



戦略策定の際には「知的財産」と「標準化」とを一体として考えていく必要がある。

知財マネジメントが重要！

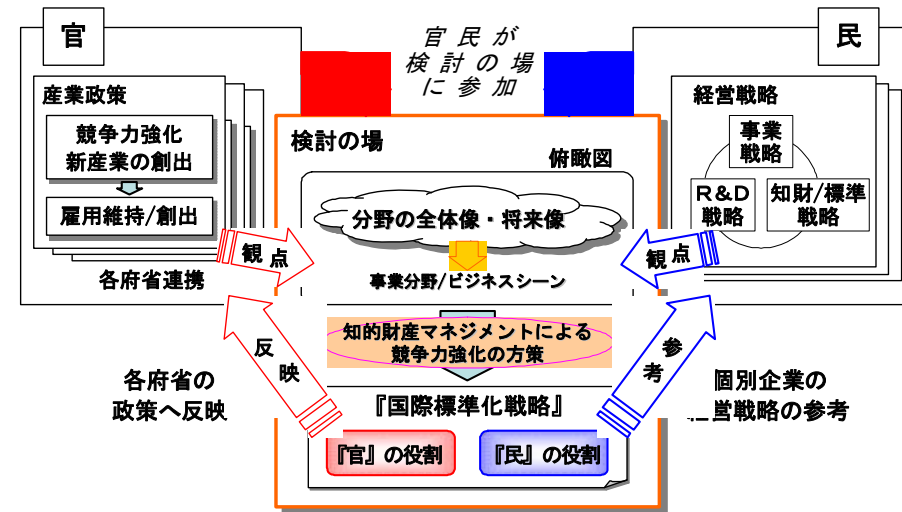
国際標準化特定戦略分野において、国際標準化ロードマップを含む競争力強化戦略を、オール・ジャパンで策定・実施

# 国際標準化戦略策定の基本的な考え方

○ タスクフォースにおいて、個別ヒアリングを通じた各分野の進捗状況の把握、有識者による議論を経て、「国際標準化戦略策定の基本的な考え方」を取りまとめた。

## 基本的な考え方

- ・ 国際標準化戦略は、我が国産業の競争力強化や新産業の創出のための産業政策の一環として位置付けられ、産業の競争力強化や新産業の創出を通じて、我が国の雇用の維持・創出を実現するものである。
- ・ 国際標準化戦略の策定に向け、基本的には、①各国の技術や市場の動向等を分析し、②産業構造の変化に留意し当該分野の全体像や将来像を見据え、想定されるビジネスシーンを踏まえた上で、③我が国の特長を強みとすべく競争力強化の方策を検討する。その際、関係府省間で連携し、適切なステークホルダーによる検討の場を設定する。
- ・ こうした検討を踏まえ、具体的な標準化ロードマップ、官民の明確な役割、関係府省間の連携体制・標準化推進体制の構築、海外との連携関係の構築、人的・財政的な支援策を含む国際標準化戦略を策定する。



## 分野別検討ポイント

- ・ 上記のプロセスに沿った検討においては、各分野に応じた以下のポイントに留意する。

例) 先端医療など、基礎技術が未確立な分野については、中長期的な期間を設定し戦略を検討する。  
次世代自動車など、モジュール化の進展が予想される分野では、標準化の対象を慎重に検討する。  
エネルギーマネジメントなど、規制の関わる産業分野では、規制の見直しなども視野に入れる。  
コンテンツメディアなど、複数のレイヤーが関わる分野では、各レイヤーまで視野に入れた全体像・将来像を調査する。

国際標準化戦略タスクフォース 座長メモ

2010/08/25

国際標準化戦略タスクフォース

座長 妹尾堅一郎

政務三役の皆様へ、今回までの国際標準化戦略タスクフォースの活動のご報告に伴い、座長メモとして以下の3点についてご提案を申し上げます。

1. 「国際標準化」に関する理解度と知識、熱意と創意工夫の度合い等について、府省部局毎にかなり開きがあることが実感されました。また、「標準化」が自己目的化しているような部局もあれば、当面の国内標準化にのみ注力しているところもあるなど、国際競争力育成としての産業振興の観点がまだまだ成熟しておらず、ビジネスモデルや知財マネジメントの関連で標準化政策を十分自主的・自覚的に検討している府省部局はごく僅かでした。さらに、同一テーマについて、府省部局縦割りが強く、相互連携が必ずしも十分でないものも少なくありません。

国際競争力育成・産業振興政策の観点から、そのツールとしての「国際標準」を十分に活かすべきことについて、さらなる府省部局内での啓発が必要です。

2. 上記の状況ではありますが、国際標準化に関する問題意識に目覚め、これから熱心に取り組もうという意欲のある府省部局も少なくありません。しかし国際的な産業の動きに対して業界の支援を先導的に行うためには、産業界において国際標準化を担う人材を育成するのと同様に、国際標準化に関する行政側の人財育成もこれまた喫緊の課題であることが実感されました。府省部局毎、あるいは横断的に、予算措置等も含め、人財育成・教育を鋭意進めることが必要です。

3. 「知的財産推進計画 2010」において重点分野として認定された分野以外にも、戦略措置が必要な分野が多々あります。それらについても、重点分野と同様に、府省部局内・間を通じて鋭意戦略的な産業政策を展開されることが必要です。我々、委員も、できる限りの指導・支援を行う所存です。